



パイロット通信 4号

平成 29 年 6 月 22 日 (木)

①「学びの変革」全県展開に向けて ～「学習者基点の学び」「深い学び」とは～

「学習者基点の学び」とは、生徒の思いや願い、考えなどを大切にしながら、教科等の目標を達成するために必要な学習内容や効果的な指導方法を取り入れ、学習活動を組み立てていくことです。また、「深い学び」とは、知識の習得に留まらず、学んだ知識をつなげて新たな知識を生み出したり、新たな学びを展開したりするような学びのことをいいます。広島県でも、この2つのことを大切にしながら全県で授業を進めています。

②第2回「学びの変革」パイロット校事業に係る校内授業研究会について

6月22日(木)に第5回校内授業研究会を実施しました。3年生の数学科の授業で「切り口の面積が最大になる角材の一辺の長さを求めよう」という授業を行いました。「1本の丸太から無駄なく、そして大きな角材を1本切り出したい!・・・でもどうすればいいんでしょう?みんな知恵を貸してください!」という技術科の教員の投げかけから授業が始まりました。個人で考えても全く歯の立たない状態からのスタートでしたが、事前に準備されたワークシートを使用したり、授業者からヒントカードをもらったりしながら、今まで学習してきたことを最大限利用し、学級のなかまと協力して課題を解決していきました。



授業後の研究協議では、「導入で生徒がさらにワクワクできる要素を入れていこう。生徒全員がわかる授業にするにはヒントカードも重要で、付箋などを使い、その場で個に応じたヒントカードを作ることも有効ではないだろうか。」などという意見が出ました。



当日は、府中市教育委員会の長岡徳恵主査様から、良い授業について貴重なご指導をいただくことができました。「生徒が主体的に取り組み、考え続けていける授業」「目標が適切に設定され、達成させることができる授業」を目指し、日々の授業づくりに励んでいきましょう。

